

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 160 号 2011. 8. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。



90歳で自然農法を実践!

山口県 小池フミコ

「肥料も農薬も使わないで畑を作ったら?」と、今は亡き自然農法の先輩の山下さんに言われ、自然農法を始めてから15年になります。おかげさまで、90歳になった今でも元気で、100坪の畑で作物を作っています。

以前は、重い肥料の袋を持つため腰が痛くて、それに農薬で手がかぶれ、困っていました。今はそういうことはなく、自然の土はきれいだし、野菜はおいしいし、みんな喜んでもらっています。



《編集部補足》小池さんは専業農家で、70年以上、施肥をしていました。今はご自分で作る100坪だけとは言え、無肥料に切り替えるのはよほどの決意だったと思います。3年目くらいから作物がよく出来るようになったそうです。

「人に良い作物あげて、喜んでもらえるのがうれしいから、たくさん作るのが好き。畑で作業していると、体がつらいときも忘れてしまう」とのこと。ご近所で自然農法を始めた方もいるそうです。機械を使わず手作業で、草が生える前に草取りをしてしまう小池さん。すごいですね。見習いたいと思います。



熊本の地に自然農法広がる!

船橋グループ 宇都宮由美子

6月20日から22日、渡辺義文さんが自然農法の米作りを行う熊本県菊池市に、船橋生産グループのメンバー責任者を含め3名で見学に行きました。

九州は梅雨に入り、何日も雨が続き、当日も熊本は朝から大雨の予報でしたので、予定している圃場見学が果たしてできるのか、とても心配でした。ところが、熊本空港から菊池に入るころには小雨になり、圃場に着いたときには雨はあがっていました。そして3時間あまり予定通り見学することができ、帰りの車に乗るとまた雨が降りだしたのです。「これって奇跡?」と驚きました。

田植え前でしたので、今回は自然農法の生産者の方々の苗床を見せてもらうことができました。渡辺さんの「ひのひかり」と酒米の「亀の尾」もありました。初めて見る何列も並ぶ苗は本当にきれいでした。近くの田んぼでは慣行農法や有機農法の苗も作っていましたので、比較すると、渡辺さんの苗はさわやかな黄緑色をしていました。熊本は肥沃な土地であるとは聞いていますが、肥料も入れず、こんなにも立派に育っている苗に感動しました。

4年前、ウンカが大発生し、大きな被害が出たとき、渡辺さんの自然田は被害に遭わなかったことで、自然農法に確信を持ったお話(ホットニュース141号参照)を以前伺いましたが、私も実際に隣の田んぼから1メートルも離れていないあぜに立ち、自然農法のすばらしさ、目に見えないXの力を感じました。今年からは新たに圃場を増やし、お店(酒屋さん)のスタッフと共に取り組むそうで、秋の収穫が楽しみです。

今回、3年前から渡辺さんがお願いして自然農法で作っていた「やぶきた」の茶畑と、山の実を植えたという「在来種」の茶畑も見学しました。なんとこのお茶は20年以上も無肥料だそうです。こんなお茶が存在していたなんて驚きでした。



渡辺さんは、仕事仲間の有機農法の生産者に、自然農法のすばらしさを伝え、少しずつ無施肥に切り替えていただいています。今年さらには多くの生産者が自然農法を実施しているそうで、この菊池の地から着実に自然農法が広がっていることを実感し、大きな希望をもつことができました。

各地の田んぼ見学レポート

自然農法普及員 野中康次

千葉県の五三会田んぼでは、初期除草に後れを取り、予定以上に除草を頑張ることになりましたが、7月後半、お陰様で出穂しました。他の稲作の仲間はどうなんだろう?と各地に向かいました。

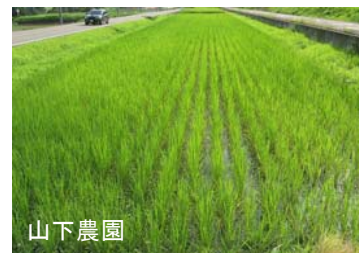
●8月6日、堀農園、梅雨明けから低温で、日照不足の長野木島平は、イモチが出やすい気候、穂に出たら大変だが、自然農法は持ち直すだろうとのこと。今年、堀農園は営農を考えた上で、一貫した試験(起し、シロカキ、苗植えの3日後から除草を4日空けずで45日間)に取り組んだが、順調だった。株間に草は少し残っているが、太くて良い稲株になって、出穂間近だった。稲刈りはお手伝いしたい。

●同じく8月6日、新潟小国町の飯塚農園、先週土砂崩れあり。途中の崖崩れや壊れた田を横目に18~19時の暗くなるギリギリの時間、田んぼの様子を見、少しだが流木を出した。田んぼの横から流れ出した土砂が、普段は小さな川だが、そこをふさぎ、大量の砂や木材など流れたようだ。被害はおおよそ面積の6分の1、砂と木など入って一部埋まっていたが、稲は顔を出していた。土砂の通った所は手刈りになるとのこと。飯塚さんは「今年は出来が良くルンルンでしたが、残念です」と。しかし、上流の慣行農法の田からは流れた稲があったが、飯塚さんの稲は流されていないようだ。自然の根の強さを再度感じた。稲は「ガンバルヨ」と言っているようだった。



飯塚農園
今夏の記録的降雨で、新潟県内の水田に大きな被害が出た

●8月10、11日、北陸の富田さん、森さん、山下さん3名は育苗で有利なポット式に移行する考え。よしたい農園の森さんは、ポット式で苗もうまく出来、植え付け後、1~2回除草機を入れ、全面的に良い状態。田それぞれの特徴が出ていたが、草が出てても稲の生長が草に負けない感じ。今年から面積も広がり、今から稲刈りが楽しみな様子だった。



山下農園

富田さんは今年除草をがんばった様子。水鳥の害を免れ、良い兆しあり。除草最終日に少し手除草に入らせてもらい、中の様子も見せてもらえ良かった。草に負けずに育つ力強さを頂いている気がした。倉庫にはすでに来年使うポット式の田植え機が準備されていた。

山下さんも昨年同様、除草に努力を感じる。5メートルの棒を引っ張るスプリング除草もしていた。稲は昨年並みに育っているとのこと。ポット式試験で面積を少し広げたので、小売販売の米も出せそう。

大自然の一部を自然田として許され、その土地ごとの自然の摂理にあわせ、心を、思いを込めた自然米が豊作であることを祈ります。そしてその自然米の恵みと愛を味わえる人になりたいと思います。

農産展2011夏

夏季農産展は8月3日に販売、21日に展示が行われました。猛暑や豪雨など、きびしい気象条件もある中、みなさんの愛情によって育まれた作物たちを見ると、ほっとする思いがしました。作物に添えられたコメントを読むと、常に気にかけること、きちんと記録をとること、自家採種など、いろいろな取り組みがあり、参考になりました。見学の方々は野菜を見たり、試食をしながら、皆盛り上がっていました。農産展という発表の場があることで、生産者も消費者も次に向かう勇気ももらいました。(編集部)



《お知らせ》 自然農法頒布会 9月17日(土) 鎌ヶ谷会場 11:00~ (売り切れ次第終了)

無施肥無農薬栽培物の販売予定

9月3日 於:伊都能売会館

生産者の方々が直接販売されます。

東京都八王子市長房町57 042-665-6369

- きじま平自然農産: 黒豆納豆、きじま弁当
- 長柄山自然農園: 卵、キュウリ
- 市川生産グループ: みかんジュース(ピン入り、コップ売り)
- 中島農園: ミョウガ、ジャガイモ、キュウリ、インゲン、ニンジン
- ジョリフィーユ: スフレタイプのチーズケーキ、カスタードプリン、マドレーヌ ほか

お問い合わせ先: 編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: naturefarming@torek.jp
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>